



行發日五月九
（列休日翌日祭際日）

美術團「白鴉會」が生れた

近藤 廣 記

現在私は植竹先生の後を継いで、水谷氏は敬称商業学校の教諭として居る。同十七回卒業の阿部廣司氏は東京高等師範の圖書手工習科を卒業して群馬縣高崎中學校に奉職して居る。同十七回卒業の阿部廣司氏は東京高等師範の圖書手工習科を卒業して群馬縣高崎中學校に奉職して居る。同十七回卒業の阿部廣司氏は東京高等師範の圖書手工習科を卒業して群馬縣高崎中學校に奉職して居る。

磐城歌壇推薦

旅の歌 加藤純弘

○庭内の草むらに、秋の海菜咲いて、秋の光に輝く。
○去年植わし池の蓮は、ひろがりて葉末の露は白く光る。
○境内に散る紙くず多く、雨に濡れて盆會終へたる寺は静かなり。
○あかききの動行の聲を、床に聴けど身のけたるさは、起きかたにあり（以上月山寺にて）
○峽に添ふ石坂道を歩み、ゆけば四方の山黒く暮れ入りけり

九月題詠

「思ひ」風（切九月十六日） 好問 伊藤坑木

廢坑を埋めつくり花芒
廢坑や芒の中の危険標
廢坑の煙灰覆れて虫啼ける
廢坑の芒の奥は水の關
廢坑の水鏡びびおどろなる
廢坑やたまか来る蜻蛉釣り
廢坑や旅人迷ふ芒露
廢坑を見下す墓地や芒山
廢坑を人魂飛ぶよそろ寒

社會の今日

△幕府御の海外密貿易を禁ず（安政六）△日露戦争（明治三八）△海軍基本演習を紀州沖で舉行（昭和七）

浪人長屋

日枝武志作 月車童子齋

鐵之助は、さういひながら、お秋の情に迷つて破門された我が身が、かへりみられぬ。お秋の情に迷つて破門された我が身が、かへりみられぬ。お秋の情に迷つて破門された我が身が、かへりみられぬ。



鐵之助は、さういひながら、お秋の情に迷つて破門された我が身が、かへりみられぬ。お秋の情に迷つて破門された我が身が、かへりみられぬ。お秋の情に迷つて破門された我が身が、かへりみられぬ。

たしには出来ませぬ。あはれな母さまの代りに、あはれな其のついでに出立して、罪もかたかく、つよく、心にさへなす。お秋さま、さばるやうにすつてゐる。お秋さま、さばるやうにすつてゐる。お秋さま、さばるやうにすつてゐる。

旅より

加藤純弘

この邊の部落は以前非常に發展した所であるが、炭坑の景氣の降り坂と共に廢墟に轉落し、昔の面影は消え、農家は電燈から洋燈に更り、村の娘達の大半は市街工業地帯に流れ出すといふ。

社會の今日

△幕府御の海外密貿易を禁ず（安政六）△日露戦争（明治三八）△海軍基本演習を紀州沖で舉行（昭和七）

ホシキョ胃腸薬

ホシキョ胃腸薬

全國民一人暮らし服用せよ
而して胃腸を健全にせよ

大樽（従来） 1000円
中樽 500円
小樽 200円

部支平一アトスンエチシホ
〇番 三九 目丁三 町平 舖藥シホ

外科全般
小兒科、内科、皮膚科、泌尿科、性病科
平町後場前、電話（二七七）

前田醫院
院長 前田清美
植田町電話二二四

非常時局大演説會
主権 東京明倫會
日時 九月七日午後七時
場所 平町聚樂館

